



二〇一八年  
伊三夫

黒い機体の小さな航空会社  
スターフライヤー

私は航空会社への就職を希望しており、先日、初めて地方まで選考を受けに行きました。言いたい事が上手く言えず、面接後は悔し涙が出そうでした。行きは、初めて乗るスターフライヤーのフライトが楽しみで、うきうき気分でしたが、帰りは正反対。

「今日面接を受けた会社の飛行機で帰るのか」と沈んでいました。しかし、一歩機内に足を踏み入るとその気持ちは一変。

入口で満面の笑みの客室乗務員の方々に出迎えられ、フライト中も終始ニコニコしているその姿を見ると、私まで笑顔になり、面接の悔いなどどこかへ消えてしまいました。

帰り際には、ドリンクサービスを担当していた客室乗務員の方が「お疲れ様です」と声をかけて下さいました。その一言はとても心にしみました。客室乗務員の仕事は、お客様の人生に触れ、心に残る、とてもやりがいのある仕事だと改めて思いました。私も皆さんのような客室乗務員を目指して頑張ります。素敵なフライトをどうもありがとうございました。

2017年春 横浜市在住 女子大生のお客様より

お手紙ありがとうございます。私はスターフライヤー客室乗務員の伊藤と申します。就活シーズンには、リクルートスーツに身を包んだお客様にも多数ご搭乗いただきます。その初々しいお姿を拝見すると、「自分も同じ道を通って来た身、何か出来ることは？」と、入口でイヤホンをお渡しする時から考えたりします。

私自身は、新卒の時には第一希望の航空会社に入らず、その後転職して現職に就きましたので、就活の大変さ、不安なお気持ち痛いほどわかります。と同時に、デリケートなお時間を過ごされている中いろいろとお声がけするものはばかられます。そんな思いから、せめて笑顔をやささないようにし、時にはお帰り際に一言だけご挨拶させていただいたりしています。

どうかお体を大切に、ご希望が叶いますよう。微力ながら、これからも未来にはばたく皆様を応援させていただきます。